

【あの子この子に自信と輝きを！】

あの子この子を意識した「3つのすすめ」

～研究授業のすすめ、書くことのすすめ、家庭訪問のすすめ～

仲 島 正 教

1. 研究授業（公開）のすすめ。

研究授業をすると、必ず変わる。

- ・授業を見直す、子どもを見直す、学級を見直す、教師を見直す、親を見直す、地域を見直す、学校を見直す・・・しんどいけど、する方が教師は必ず成長する。

誰のための研究授業か。

- ・あの子この子のため、自分のため、仲間のため、それが研究授業
- ・あの子この子を意識すれば、必ずあの子この子のためになる。
- ・授業の成否や参観者を意識すれば、あの子この子が見えにくくなる。

指導案を書くと、必ず変わる。

- ・子どものことも、教材のことも、指導のことも、わかっているようで実はわかっていない。書き出すと書けないことが多い。だから書くことが大切。
- ・子どもの実態は、全体的に書くのではなく、あの子この子のことを具体的に書く。
- ・座席表（個人カルテ）を書くと誰を見ていないか、すぐにわかる。
- ・困っている子の悪い所をどんどん書き出していくと、逆にいい所も見えてくる。
- ・誰の顔を浮かべながら授業を考えているのか？ その顔をはっきりさせたい。全体的に見ているのは、実は誰も見ていないのと同じこと。
- ・あの子この子のための授業をするとほかの子が見えないのでは？と思うのはやったことがないから。あの子この子のための授業をすると、びっくりするくらい他の子も見えてくる。やった者にしかわからないこの感覚と喜び。
- ・年に1回か2, 3回のこと。そのときぐらいはたっぷり時間をかけて、詳しく書きたい。
- ・趣旨は児童観、教材観、指導観が一本の筋でつながっているように書く。こんな子どもだから、この教材を使って、このように指導する。
- ・指導観の中には、具体例が出ていないと授業ではうまくいかない。

参加型学習で考えたいこと。

- ・参加型学習が登場してきたのはなぜ？
- ・テキスト通りに授業を流すのなら外部の講師に任せたらいい。担任の強みは子ども理解が出来ていること。そしてあの子この子を意識した授業が出来ること。
- ・「不易流行」「温故知新」 昔の授業にもいいものがあることを忘れない。
- ・参加型学習の授業後こそ大切。その後の先生はどう支援しているのか
- ・学級づくりは、1年間かけた「参加型学習」 学校づくりは、年間かけた「参加型学習」と考えてみると・・・。

授業づくりは学級づくり。

- ・学級がうまくいかないから、研究授業ができないのではなく、うまくいかないからこそ、研究授業を試みるのである。この二つは両輪である。
- ・子どもは、授業で必ず変わる。子どもは授業で育てるもの。
- ・授業を通して学級を育て、学級を通して授業を育てる。それが子どもの成長。
- ・授業づくりは、教師の原点である。

2. 書くことのすすめ。

子どもが書く

書きたくなるような工夫を ノートの工夫、紹介の工夫、添削の工夫・・・
書かすタイミングや書く題材を考えて これならボクにも書けそうだと
見たこと帳、心のノート、40日日記、ワクワク物語、修学旅行物語・・・

先生が書く

楽しく書こう学年通信学級通信「ユーモアと子どもの姿が入っているといいな」
書くことで自分を子どもを振り返るきっかけにしたい。文字や言葉によるフィードバックは子どもに自信を持たせられる。いい言葉や感動の出来事を残していく
作業 「俺たちはなかなかかまもんや」そんな子どもたちの集団に

記録をつける

子どもの記録をつけていく あの子には、こんな所があったという驚きや感心
いつ書くの？ 気づいた時にすぐ 給食の時間の工夫
書いていけば、懇談会や通知表の所見はすぐに出来る 具体例はやはり強い

3. 家庭訪問のすすめ

家庭訪問は5分間でいい

仕事の帰りに少し寄る 玄関先で話す 雨の時でも行く

話す内容は些細なことでもいい

今日発表したよ ゴミ拾ってくれたよ 友だちを励ましたよ・・・
先生が少しの事でも感動したことをすぐに伝えると、新鮮でおいしい！
親は、いいことはいくらでも聞きたいし、それなら突然行っても怒られない
突然行って悪いことを言うと怒りは2倍になる（でも電話よりはまし）

お母さんお父さんからほめられるとうれしい

先生に直接ほめられるのもうれしいけど、それがまわりまわって親や親戚からほめられるとまたうれしい

温かい家庭からは、温かい心が生まれる

その温かさのタネを持っていくのが5分間家庭訪問

本当の子どもの姿が見えてくる

乱暴な子も本当は心の優しい子・・・ 子どもとの距離が縮まる

人権教育の視点に立つとは？

クラスの中で一番厳しい（弱い）立場の子が大切にされているか

番外編 1 . 校内研究会は、ピシピシと

「今日のご苦労様でした。とってもいい勉強になりました。ありがとうございました。」と定例のようにおべんちゃらを言っていたら自分たちは伸びない。伸びるためにはいろいろ思うことをお互いに言い合う事が大切！言われてショックなこともあるけど、自分たちが伸びるために研究会をやっているんだから、その厳しさは必要です。教師としてのプロ意識と誇りを持つことです。と同時に人の意見を受け入れられる謙虚さも持ち合わせる事が、教師が伸びるための条件です。そうすると、きっと授業が変わります。子どもの見方が変わります。学級が変わります。そして子どもも先生も笑顔が出てきます。「教師が伸びれば子どもが伸び、子どもが伸びれば教師も伸びる」

番外編 2 . 「先生、私を見て！」

「私を特別扱いして。」・・・千趣会の新聞広告より・・・

あの子この子は特別扱いを欲している。先生に気にかけてほしい。ほめてほしい。認めてほしい。叱ってほしい。平等に扱うとは？巡回指導の大切さ。読み聞かせのしかた。集合で遅れてくる子

番外編 3 . 参観授業・懇談会を大切に！

参観授業や学級懇談は、保護者とつながる絶好のチャンスです。この好機を逃してはもったいないです。学級の子どもたち、そして自分の授業を見てもらいましょう。あの授業なら大丈夫と思ってもらえるように全力で取り組みましょう。参観は出来るだけ多く設定したいものです。はじめは気を使うし、いやなものです。でも多くなってくると次第に肩の力が抜けてくるのがわかります。すると、もういつ見てもらってもよくなってきます。そして、そこには自分の本当の授業があらわれてきますし、本当の信頼も生まれてくると思うのです。